

キョウトアオハナムグリの分布について*

高 橋 寿 郎

キョウトアオハナムグリが京都花園、貴船産4♂に基いて新島善直、木下栄次郎両博士によって *Potosia nitidiscutellata* Nijima et Kinoshita として新種記載発表されたのは大正12年(1923)のことである。

1933年には加藤正世博士は京都衣笠産の美しい1♂を原色で図説された。この時代の前後から本種が京都産で記載されたということから京阪神の同好者の注目される所になっていたと思われる。1934年関 公一氏が本種の分布を発表されてから本種に関心が湧きあがり多くの産地の記録が現れた。

当時大阪におられた今西芳之氏が寺西暢氏宅で神戸在住 John E. A. Lewis 氏の所蔵標本中に氏が採集した *Protaetia hondana* の Paratype を検出して *Potosia nitidiscutellata* と同じであることを発見された。そこで氏は *P. hondana* の♂♀と考えられる標本を寺西氏の手を経て Lewis 氏により British Museum に送り Dr. Arrow に同定を依頼した。その結果この♂は *P. hondana* であり♀は *Protaetia lenzi* (原記載は *Cetonia* 属) であるとの返事がきた。そして *P. hondana* と同定せられたものを北大の木下栄次郎博士に送って調べて貰ったところ *P. nitidiscutellata* と同じであることがはっきりした。そこでまず *P. nitidiscutellata* と *P. hondana* は同じ種であると云うことが確認出来たわけである。そして野外における生態観察並びに飼育観察の結果 *P. hondana* と交尾する♀は先に Arrow の同定した *P. lenzi* という種であった。そういったことからこの3者は全部 *P. lenzi* (Harold) とすべき種であるとされそれをまとめて公表されたのが1938年(昭和13年)のことである。ところがこの報文が発表される少し前に米谷正司氏が *Potosia nitidiscutellata* として♂♀に就いての報文を発表された。*P. nitidiscutellata* は♂のみで記載されたのであるから♀の記載は無かったわけで自然状態で♂♀と判定出来る生態から♀の記載をされたわけである。これがその時点では今西氏により *P. hondana* = *P. lenzi* と一連の整理が行われていたわけであるが知らずに発表されたのである。この記載について今西氏と米谷氏の間に記載の誤りとか表現方法の違いで論争があったことはよく知られている。当時筆者も中学生であり関公一、米谷正司両氏の所へ訪問して色々御指導を受けていた時代で直接御兩人からこの辺のお話をお聞きすることが出来たし、

P. lenzi 住吉産の♀を頂いて今でも大切に保管している。今西芳之氏からも論文の別刷の御恵送を頂いたりした。

ところで以上の様な経緯でキョウトアオハナムグリは *P. lenzi* (Harold) となったのであるが、この虫はヒョウゴアオハナムグリ又はコウベアオハナムグリと呼んでも良いのではないかというように神戸産で記載されたものであり当時神戸付近に多くいたし現在も兵庫県下に多く産する虫なのである。

まず Harold, E. V. は1876年 *P. lenzi* (Harold) を *Cetonia Lenzi* と命名記載された (Lenzi とは人名)。Lenzi, Tuiscon という人は神戸にいたドイツ人の商人で(在留期間, 1874—1880), 多くの甲虫を採集してドイツに送ってそれぞれ研究を専門家に依頼した人である。従ってこの *P. lenzi* の採集地も原記載には書いてないがその序文に Lenzi の Hiogo で採集した甲虫類であることを書いているのでその住んでいた場所柄から神戸であると考えて良い (Hiogo とは当時一般的に現在の神戸市内をこの様に称していたと考えられる。詳しく言えば Hiogo とは今の国鉄神戸駅から西にあたる場所である。もちろんこの記載に用いられたのは♀の標本である。1879年の L. V. Heyden の論文に次のように書いてある。すなわち “Ein mit der Beschreibung bei Harold — Abh. Bremen, 1876, p. 128 — vollkommen übereinstimmendens ♀, woher auch des einzige seither bekante, von Lenze gefundene ♀ stammt”).

1879年 Heyden は1874~1875年間日本を採集旅行された Rein 博士の採集品の甲虫類を研究された論文の中でこの種を *C. Lenzi* Har., として記録しているがこれも産地が書かれていない。Dr. Rein の採集した甲虫類を見ると兵庫(神戸)で採集されたものが一番多く京都がその次に続くところ(村山, 1938)。その6回にわたる日本での採集調査の行程を時期的に眺めて見て神戸付近で採集されたことは間違いない(これも♀であることがはっきり書いてある。前掲)。次いで G. Lewis が1887年 *Cetonia Lenzi* として京都で, 6 exs., を6月に採集していると書いている。これらは総て♀であると考えられる(♂であれば *C. Lenzi* と同定出来ないはずである)。

1913年に G. J. Arrow は G. Lewis 採集の日本産甲

*兵庫県産甲虫相資料, 52

虫の内鰓角類について発表された論文の中で *Protaetia hondana* なる新種記載をされた。この記載に用いられた標本は神戸産(Ⅶ-1913), 種子島産(1♂, V-1913), 広島産 (Janson Collection) ということではじめの2個体は神戸在住の J. E. A. Lewis の採集になると記されている。後この神戸産標本は1♂, 神戸市原田, 8-VII-1913(Holotype)であることがわかった(M. E. Bacchus, 1974)。種子島産はParatypeでロンドンの British Mus. に保管されており, 広島産は Leiden の Ryksmuseum van Natuurlyke Historie に保管されていることが記録されている。

こうして眺めて見ると神戸から採集されたもので♂♀が記載されているにもかかわらず一般に注目されず, キョウトアオハナムグリと発表されたことにより注目もされてきたのであるがこの学名が前記のようにシノニムで消えてしまった現在, 筆者は別に和名にこだわる必要もないと思われるがヒョウゴアオハナムグリ或いはコウベアオハナムグリと一人で呼んで喜んでい。今一つこの虫が現在では兵庫県下特に明石市内に多産するのであるから尚一層この名にふさわしいように思われるのである(尤も現在の神戸市内での本種は残念ながら開発がひどくまず産しないように思われる。また後述するが和歌山県にも多産するようである)。

さて本種の日本における分布状況はどうであろうか。北から順に出来るだけ多くの記録を集めて調べて見た。

北海道地方

夕張?Ⅶ-1933, 今井氏採集? (今西芳之, 1938)。関公一氏(1934)は“知人より北海道の甲虫を寄贈されたがその中にこの甲虫二頭を見出した”とあるも詳しいデータが無い。北海道の記録は上記の2つだけである。これだけはっきりした種であるから同定は困難でないと思う。それだけに詳しいデータが無い以上北海道には分布していないと考えてよいのではないだろうか。

近畿地方以东

茨城県筑波山: 1♂, 31-VII-1969, 西尾享採集(市川敏之, 1971)。

埼玉県長瀨: 1♀, 11-VIII-1967, 早瀬ゆたか採集(市川敏之, 1971)。

山梨県上野原: 1♂, 10-VII-1966, 岩田一郎採集(櫻井俊一, 1967)(本種は上野原においてアオハナムグリ, ハナムグリと共にかなり花上にいたように記録されている)。

その他では上高地の記録がある(今西芳之, 1938), これもデータが全く無い。

近畿地方

和歌山県日高郡御坊: 1♂, 20-VI-1938(岡本四郎, 1938)。1♀, VIII-1964(筆者所有, 採集者不明)。御坊町亀山, 衣奈村及び有田郡(後藤伸, 1950)。亀山には多産すると。亀山, 4-VIII-1970(楠井善久, 1972)。

奈良県宇陀郡三本松大野: 1 ex., 11-VIII-1933(沢田玄正, 1933)。

奈良市多聞町及び前記(関公一, 1934)。

奈良及び柳本町, 笠置山, 山辺郡東屋村添野(米谷正司, 1938)。

京都府: 衣笠, 1♂(加藤正世, 1933)。吉田山, Some Exs., 30-VIII-1934(高橋篤, 伊藤修四郎, 1935)。

貴船, 1♂, 25-VII-1936(平山修次郎, 1937, 1940)。

京都地方, 6 exs., (G. Lewis, 1887)(関公一, 1934)。

大阪府: 中河内(関公一, 1934)。岩湧山, 1♂, 12-VIII-1938, 高橋寿郎採集所有。箕面山(大阪府農林部, 1965, 1967)。東能勢村吉川下之町, 1♂, 14-V-1966, 吉川峠, 1♂, 14-V-1966, 1♂, 27-V-1966, 1♂, 16-VII-1967, 1♂, 26-VII-1967 1♂, 30-VII-1967, 青貝山付近, 1♀, 14-V-1967(仲田元亮, 1970)。能勢, 1♂, 1♀, VII-1940(伊賀正汎, 1955)。

兵庫県: 川辺郡東谷村妙見山, 30♂, 9♀, 7-VII-1937, 14♂, 6♀, 18-VII-1937(今西芳之, 1938)。

猪名川町内馬場, 1♀, 4-VI-1967(仲田元亮, 1970)。

笹部, 1♂, 21-VII-1959, 高橋寿郎採集所有。

多田, 1♂, 4-VIII-1941, 海老名採集(高橋寿郎, 1942), 1♀, 3-VI-1943(高橋寿郎, 1949)。

神戸市御影町, 住吉村(関公一, 1934)。

本山村(米谷正司, 1938), 御影, 1♀, 15-VII-1935, 米谷正司採集, 高橋寿郎所有(高橋寿郎, 1949)。

原田, 1♂, 8-VII-1913, J. E. A. Lewis leg. Holotype(M. E. Bacchus, 1974)。P. hondana Arrow の原記載(1913)には神戸とのみ記録されている。寺西暢・瀧口浩(1935)には神戸(上野)とあるも前記が正しい。

六甲山, 摩耶山麓(高橋寿郎, 1942)。摩耶山麓(増田猛・橋本直也(1940)(稀とある)。菊水山, 1♀, VII-1942, 中井章能採集(高橋寿郎, 1942)。鳥原, 1♀, 17-VIII-1941, 高橋寿郎採集所有(高橋寿郎, 1942, 1949)。多井畑(米谷正司, 1938)。

水上郡(山本義丸, 1958)。水上郡柏原, 1♂, 25-VIII-1935, 2♂, 20-VIII-1955, 山本義丸採集, 高橋寿郎所有。

洲本市(関公一, 1934, 今西芳之, 1938)。

明石市明石公園(奥谷禎一, 1974, 山口福男, 1974)。

5♂, 3♀, 15-VI-1975, 14♂, 9♀, 21-VI-1975, 11♂, 11♀, 29-VI-1975, 8♂, 2♀, 12-VI-1976, 13♂, 4♀, 19-VI-1976, 10♂, 13♀, 26-VI-1976, 52♂, 47♀, 3-VII-1976, 26♂, 21♀, 16-VII-1976, 以上高橋寿郎採集所有。

近畿地方以西

広島県：広島(Janson. Coll. Arrow, 1913).

尾道市外栗原町(関 公一, 1934)。呉・灰ヶ峰(保田信紀, 小阪敏治, 1965。中村慎吾, 1966)。宮島, 1♂, 17-V-1970(小阪敏治, 1970), 2♀, 14-VI-1973, 水田国康採集(小阪敏治, 1973)。賀茂郡西条町(小阪敏和, 1973)。

徳島県：名西郡神領村南上角, 1♀, 2-VII-1948, 神領村北上角モロス, 1♀, 31-VII-1952(三宅義一, 日浦勇, 溝口修, 西岡靖夫, 1958)。

高知県：幡田郡月灘村, 1♂, 2-VI-1935, 倉持平作採集(今西芳之, 1938)。

熊本県：阿蘇郡久木野村, 1ex., 28-VII-1955, 人吉市村山, 1ex., 27-V-1958 阿蘇郡久木野柿野, 1ex, 10-VIII-1961。本種は極めて少なく本県では上記3頭しか採集されて居らず, 九州でも採集地は多くないとある。

種子島：1♂, V-1913, J. E. A. Lewis leg. (Arrow, 1913。寺西暢・瀧口浩, 1935。今西芳之, 1938。M. E. Bacchus, 1974)。

屋久島：栗生, 1ex., 9-VIII-1969, 奈良 一採集(後藤光男, 1969)。

以上本種の分布の概要を眺めて見た。野村鎮氏は本種の分布を本州(中部以西), 四国, 九州, 種子島とされている(1960, 1963)。

北海道には分布していないようで現在わかっている東限としては茨城県ではあるが本州の関東から西に分布している種と考えてよいようである。全国的に眺めてもそう広い分布をしていないようだし個体数も少ないように見受けられる。

近畿地方には割合多くいるようで和歌山県下の多産は記録されている。京都での状況は詳しくわからないが大阪府と兵庫県との境を接する妙見山付近, 笹部などは多産地として知られていたが最近が開発が進んで少なくなったようである。神戸市内での産は現在ではほとんど無い状態と考えられる(須磨での最近の採集品はある)。水上郡下にも割合いたようであるがこの地も開発が進んでいるので昔のような状態かどうか一寸不明。明石市の明石城公園内は現在非常に多くいる地である。とにかくこれ程多くいるのは珍しい。次々とこの公園も開発され

て環境が変りつつあるのでどの様になるか予想は出来ない。

最後に本種の生活史はどうかというに, 残念ながら今の所充分わかっていない。今西氏は飼育により交尾状態の観察を発表しておられるが全生活を観察されたわけではない。一般的には *Protaetia* 属の仲間と同じような生活をしていると考えられる。山口福男氏によると本種の活動に必要な気温は20℃であるとのこと。このことは神戸付近では6月下旬から7月上旬にあたる。一般に本種を野外で見る機会の少ないわけがこの辺にあると考えられる。例えば明石公園あたり6月下旬の朝6~7時頃行くと道端の草叢にとまっていたり道路の側溝の中にいたりして余り活動をしなない。気温の上ってくる午前10時過ぎになると活潑に飛翔等するようになる。この習性を知れば採集は割合簡単である。それ故この時期の調査を兵庫県下の他の地で実施すればもっと分布も広く多く産する所があるかもしれない。どちらにしろ兵庫県には緑の深いハナムグリであり何時迄も現在の分布状態でいてほしいものだと望んでいる。

参考文献

- G. J. Arrow (1913). Notes on the Lamellicorn Coleoptera of Japan and Descriptions of a few new Species.
Ann. Mag. Nat. Hist. xii, 8: 394-408.
- M. E. Bacchus (1974). A Catalogue of the type-specimens of the Cetoniinae (Coleoptera:Scarabeidae) described by G. J. Arrow with a complete bibliography of his entomological works.
Bull. Brit. Mus. (Nat. Hist.) Entom. London, 31(2): 23-44.
- 後藤光男(1969). 屋久島未記録の甲虫類・昆虫と自然, 4(12): 9.
- 後藤 伸(1950). 紀州産ハナムグリ類(Group Cetoniides)について, 紀州昆虫, II(3): 49-51.
- E. v. Harold (1876). Verzeichniss der Von Herrn T. Lenz in Japan gesammelten Coleoptera
Abhandl. Nat. Ver. Bremen, V: 122-128.
- L. v. Heyden(1879). Die coleopterologische Ausbeute des Prof. Dr. Rein in Japan 1874-1875.
Deut. Ent. Zeit. XXIII, Heft.II: 321-365 (ref. p. 349).
- 平山修次郎(1937). 原色千種続昆虫図譜. pl. 64, f. 7, p. 135.
- 平山修次郎(1940). 原色甲虫図譜. pl. 23, f. 7, p. 58
- 保田信紀・小阪敏和(1965). 呉市付近のコガネムシ
広島虫の会会報, No. 4.

- 市川敏之 (1971) . 関東産キョウトアオハナムグリについて
月刊むし, No 8 : 35.
- 伊賀正汎 (1935) . 原色日本昆虫図鑑, 甲虫編. 増補改訂版 (保育社), pl. 32 f. 699, 700.
- 今西芳之 (1938) . キョウトアオハナムグリの学名に就いて
関西昆虫雑誌, V(1): 23-30, pl. 3.
- 加藤正世 (1933) . 分類原色日本昆虫図鑑, 第八輯.
pl. 2, f. 1.
- 米谷正司 (1938) . キョウトアヲハナムグリの雌雄に就いて
昆虫界, VI(47): 94-97.
- 米谷正司 (1938) . 拙論キョウトアヲハナムグリの雌雄の記載に就いて 昆虫界, VI(56): 796-797.
- 小阪敏和 (1970) . 広島県産甲虫ノート(4)
広島虫の会会報, 9 : 301~305.
- 小阪敏和 (1973) . 広島県産甲虫ノート(7)
広島虫の会会報, 12 : 67~69.
- 小阪敏和 (1973) . 宮島の甲虫目録(2)
広島虫の会会報12, 79~82.
- 楠井善久 (1972) . キョウトアオハナムグリにみられた同性間 (雌) の交尾行動
昆虫と自然, 7(3) : 25.
- G. Lewis (1887). XXVI-On the Cetoniidae of Japan, with Notes of new Species, Synonymy, and Localities
Ann. Mag. Nat. Hist. XIX(5): 198-199.
- 増田猛・橋本直也 (194) . 一中付近の昆虫
兵庫県立第一神戸中学校博物学会刊.
- 三宅義一・日浦勇・溝口 修・西岡靖夫 (1958) . 徳島県のこがねむし類
昆虫科学, No. 7 : 31-32.
- 村山醸造 (1938) . Dr. Johann J. REIN の採集旅行
昆虫研究, II(1): 14-18.
- 中村慎吾 (1966) . 広島県産コガネムシ・クワガタムシ類
比和科学博物館研究報告, 第10号 : 7-10.
- 仲田元亮 (1970) . 能勢の昆虫 (甲虫) (自刊) .
- 新島善直・木下栄次郎 (1923) . こがねむしに関する研究報告 (第二)
我国に産するこがねむし及其分布, 北海道帝国大学農学部演習林研究報告, 第二卷, 第二号, pp. 174~175, 234~235, Taf. V. f. 2, Taf. VII, f. 8.
- 野村 鎮 (1960) . 日本産コガネムシ類目録
桐朋学報, No.10 : 39-79(ref. 75).
- 野村 鎮 (1963) . 原色日本昆虫大図鑑, 第2卷 (甲虫篇) (北隆館) . pl. 68, f. 5a, b. p. 135.
- 岡本四郎 (1938) . キョウトアヲハナムグリ日高郡御坊に産す, 虫の世界, 2(7/8) : 170.
- 奥谷禎一 (1974) . 兵庫県の昆虫類の現状
兵庫県の自然の現状, II, pp. 49-67.(ref. p. 59)
(兵庫県自然保護協会刊)
- 大阪府農林部 (1965) . 箕面山の動物相調査. p. 176.
- 大阪府農林部 (1967) . 箕面山の動物相調査, 改訂版.
p. 143.
- 大塚 勲 (1962) . 熊本県産コガネムシ類目録(4).
北九州の昆虫, 9(2) : 27-32 (ref. p. 28), pl. 5.
- 櫻井俊一 (1967) . コガネムシ上科の新産地
昆虫と自然, 2(3) : 13.
- 澤田玄正 (1933) . キョウトアヲハナムグリの新産地
昆虫界, 1(6) : 660.
- 関 公一 (1934) . 大阪・神戸附近の金亀子虫
昆虫界, II(9) : 308-313.
- 高橋 篤・伊藤修四郎 (1935) . 京都附近に産し比較的稀と思われる昆虫数種
昆虫界, 3(17) : 330.
- 高橋寿郎 (1942) . 神戸産はなむぐり亜科雑記
昆虫世界, 46 (542) : 306-307.
- 高橋寿郎 (1949) . Cetoniinae 亜科覚書
昆虫科学, No.27 : 55-58.
- 山口福男 (1974) . キョウトアオハナムグリ
インセクタリウム, 11(6) : 10.
- 山本義丸 (1958) . 兵庫県水上郡昆虫目録
水上の自然, 第3集.
Natura 特別号.

(11-V-1977)